

かとう通信 第29号



発行日：令和元年10月1日 発行人：かとうファミリークリニック

予防接種と集団免疫

10月になりましたが、日中はまだまだ蒸し暑い日が続いています。気温の差も大きく体調に崩さないように気をつけましょう。

●感染症のグローバル化

今年はラグビーワールドカップ、来年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピック。海外からも多くの人々が日本を訪れると予想されます。人々の広範囲な移動とともに、感染症の病原体も世界レベルで広まる可能性が指摘されています。先月には季節外れのインフルエンザの散発的流行がこの地方でもみられました。原因の一つとして、南半球(は冬ですね)や東南アジア(雨季に流行するそうです)からウイルスが持ち込まれる可能性も考えられています。

最近ではビッグデータを用いて、各地域での感染症の流行リスクを、計算によって求める研究も進んでおり、より効果的に世界的な感染症予防対策ができるようになるかもしれません。

●集団免疫という考え方

集団免疫とは、あるコミュニティの中で多くの人々が予防接種を受け、感染症に対する免疫力を持つ人の割合が増えることによって、その集団内での流行を防ぐことができる、という考え方です。そして抵抗力の弱い赤ちゃんやお年寄りの感染や重症化を防ぐことができます。

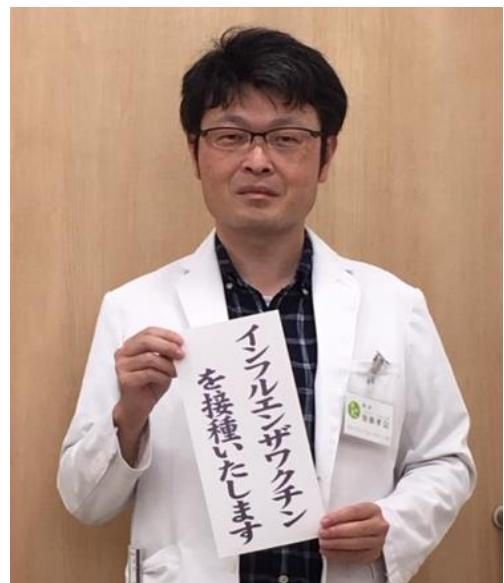
インフルエンザのように毎年流行する感染症では、どうしても予防接種は「私」が感染したかしなかったかに注目しがちですが、家族やお友達、そして地域の皆さんを護るためにも、積極的な接種をお勧めします。

今年度から始まった風疹抗体の無料検査と追加接種も、抗体陽性率の低い40-50代男性の抗体陽性率を上げることによって、流行を防ぐという意味合いがあります。風疹抗体検査・予防接種は随時行っておりますので、まだ受けておられない方はこの機会にぜひ検査で確認してみましょう。

●インフルエンザワクチンは毎年打たないといけない？

よくある質問ですが、インフルエンザウイルスは変異しやすく、毎年流行する型が変わります。ワクチンは前シーズンの流行状況から次のシーズンに流行しそうな型を予測し、製造する種類を決定します。予測がはずれ予防効果が不十分なシーズンもあります(昨シーズンはそうだったのでしょう)。ただ毎年接種を継続することによって、その年の型には十分な効果がなかったとしても、似たような型が流行した際には多少なりとも免疫記憶が残っているため、発症したり重症化を防ぐことができると考えられます。お子さんが感染したのに、つきっきりで看病されているお母さんが感染しなかった、というようなケースは、このような場合(もしくは過去に感染したことがある)なのではないかと考えています。ちなみにその方は、看病しないでずっと隔離されていた旦那さんはかかったのに！と怒っていましたが…

予防接種とともに、手洗い・うがい・マスク着用も心がけて予防していきましょう。



ご予約受付中
接種は10月15日からです